

『まるごと』を用いた実践の内省的分析 ー授業者の視点から見た利点と困難についてー

A Reflective Analysis of Instructional Practice Using Marugoto: Strengths and Limitations from the Instructor's Perspective

マレーシア日本国際工科院
山岸友真

今日の日本語教育では、行動中心アプローチや能力記述文が重視されている。また、国際交流基金では、これらに基づく教材である『まるごと 日本のことばと文化(以下『『まるごと』』)』を作成している。しかし、この行動中心アプローチや教材について、元となる理論との乖離などの課題も指摘されており、日本語教育における理論的整理と実践的検討は重要だといえる。

本発表では、発表者自身の実践の振り返りの記述を対象に、キーワードの抽出とカテゴリー化を実施し、それらを考察することで、『まるごと』をどのようにとらえているかについて検討した。これにより、授業者の視点から見える利点と困難について整理することを目指す。発表者は、『まるごと』に対し、会話練習、学習者からの質問と学習者への説明、能力記述文の扱い方、授業展開などに困難を感じていることが分かった。これらの困難が、『まるごと』の理念や構成に対する理解不足、教材内容と学習者の性質・ニーズとのずれ、『まるごと』を用いた授業運営に必要な指導力の不足感などの複合的な要因に起因していることが考察された。

参考

国際交流基金(2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門A1かつどう』三修社
今井新悟・伊藤英明(編)『日本語の教科書がめざすもの』凡人社